

トルコの政策金利引き下げについて

9月11日（現地時間）、トルコ中央銀行（トルコ中銀）は政策金利としている1週間物レボ金利について、現状の43.00%から2.50%引き下げ、40.50%にすることを発表しました。2.50%の引き下げ幅は、市場予想の2.0%を上回る水準でした。

トルコ中銀は、4～6月期のGDP成長率が市場予想を上回ったものの、内需は依然として弱く、最近のデータは需要環境がディスインフレ（インフレ鎮静化）水準にあることを示していると判断しました。トルコ中銀は、物価安定が達成されるまで金融引き締め姿勢を維持すること、またその金融引き締め姿勢維持が、内需の減速、為替の安定化、インフレ期待の改善を通じてディスインフレプロセスを強化することを期待していると表明しました。トルコ中銀は、今後、トルコの中期プログラムで示されたマクロ経済の枠組みがディスインフレプロセスに寄与すると見込んでいます。

トルコ中銀は、実際のインフレ率とインフレ期待、およびトレンドを考慮した上で、ディスインフレに必要な政策金利を決定し、インフレ見通しを慎重に見極めつつ、会合毎に決定していきます。インフレ見通しが8月に設定した暫定インフレ目標値から大きく乖離した場合、金融政策スタンスは更に引き締められます。トルコ中銀は、クレジットおよび預金市場で予期せぬ事象が発生した場合、追加のマクロブルーデンス措置（金融システム全体の安定性を維持し、システムリスクを管理するための政策や規制手法）を通じて金融政策の伝達メカニズムを支える考えです。トルコ中銀は、流動性の状況を注意深く監視し、引き続き効果的に流動性管理手段を講じていく方針です。

今回のトルコ中銀の決定は、市場予想を上回る利下げ幅となりました。市場の反応はやや否定的で、トルコ株式市場は下落しました。

金融引き締めと実質金利の上昇は、内需の減速を通じてトルコ経済に悪影響を及ぼしてきました。これは2023年末に経済減速が始まって以来の傾向でした。しかし、良好なベース効果と経済回復により、2025年4～6月期のGDP成長率は市場予想を上回るものとなりました。堅調な内需に牽引され市場予想を上回るGDPが発表されると、複数の証券会社は2025年の総利下げ幅予測を下方修正しました。トルコ中銀に対し、内需を抑制するために利下げサイクルを一時停止すべきとの見方さえ浮上しました。しかし、トルコ中銀は今回、市場予想を上回る利下げを実施し、緩和サイクルを継続しました。

トルコ中銀が長期にわたり過度な引き締め政策のスタンスを維持する可能性は低いと見ています。特に金融政策の遅行効果を考慮すると、長期にわたる実質金利の高止まりは意図以上に成長を鈍化させる恐れがあるためです。今年残る金融政策決定会合は10月と12月の2回のみであり、特に世界の主要な中央銀行も年内に政策金利の引き下げが予想される中、トルコ中銀は緩和サイクルを継続すると見込んでいます。

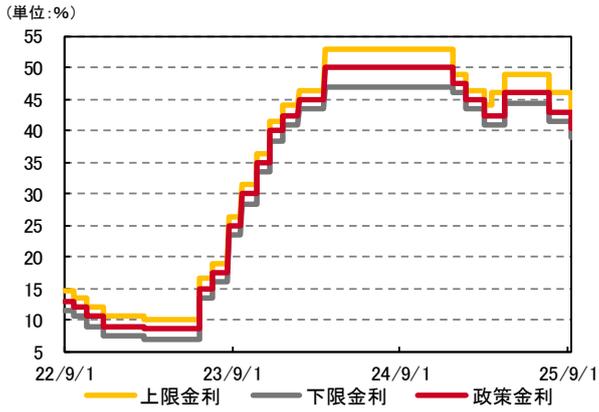
トルコ中銀は、ディスインフレプロセスの別手段として、8月中旬に予測インフレとは別の暫定インフレ目標を導入しました。暫定インフレ目標値は、市場に対するコミットメントと市場の期待をつなぎとめるアンカーのような存在として機能し、市場により明確なガイダンスを提供するとともに、政策の信頼性を強化することを目的としています。したがって、トルコ中銀が利下げ幅の調整には慎重に対応しつつ、信用拡大管理やコミュニケーションツールの活用といったマクロブルーデンス措置を通じて金融緩和を補完すると予想しています。

一方、トルコ国内の政治リスクの高まりを受け、トルコ中銀は国内個人投資家の動向を注視し続けるでしょう。今回の声明からトルコリラの実質の上昇に関する言及が削除されたことは、トルコ中銀が今後急速な通貨安を予想しているとのシグナルと解釈される可能性があります。とはいえ、トルコ中銀は声明において為替レートがディスインフレプロセス強化の一翼を担うとの見解を改めて表明しています。したがって、制御不能な通貨安がディスインフレプロセスを損なう可能性があるため、必要に応じて、トルコリラの変動抑制と急激なドルへのシフトを防止するための追加措置を講じると予想しています。

（各種情報を基に当社が作成）

政策金利の推移

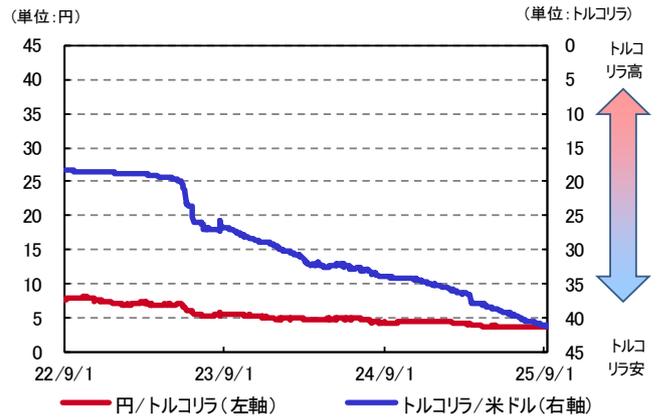
2022/09/01～2025/09/11



出所: Bloomberg

為替レートの推移

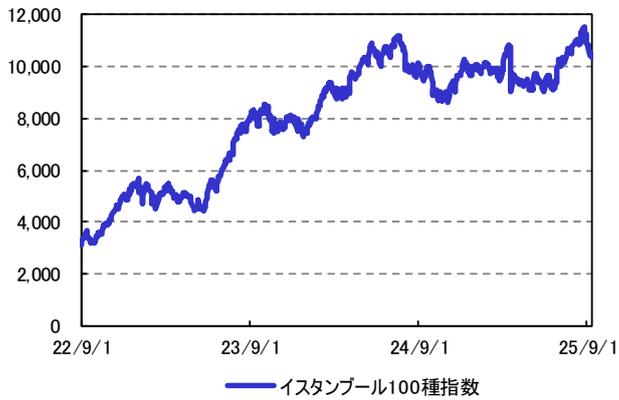
2022/09/01～2025/09/11



出所: Bloomberg

株式市場の推移

2022/09/01～2025/09/11



出所: Bloomberg

[投資信託をお申込みに際しての留意事項]

| 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。従ってお客さまのご投資された金額を下回ることもあります。
また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧下さい。

| 投資信託に係る費用について

[ご投資頂くお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

購入時に直接ご負担いただく費用	購入時手数料 上限3.85%（税込み）
換金時に直接ご負担いただく費用	信託財産留保額 上限0.5%
投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用	信託報酬 上限2.09%（税込み）
その他の費用等	上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。 「その他の費用等」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。 交付目論見書、契約締結前交付書面等でご確認下さい。

※当該手数料等の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、SOMPOアセットマネジメント株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく交付目論見書や契約締結前交付書面をご覧下さい。

SOMPOアセットマネジメント

SOMPOアセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第351号
 加入協会／一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料のご利用にあたっての注意事項

- ◆ 当資料は、SOMPOアセットマネジメント株式会社により情報提供を目的として作成された資料です。したがって、勧誘を目的としたものではありません。また、法令等にもとづく開示書類ではありません。
- ◆ 投資信託は、主として値動きのある証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失が生じ、投資元金を割り込むことがあります。
- ◆ 当資料に記載されているグラフ・数値等は過去の実績を示したものであり、将来の成果等を保証するものではありません。当資料は弊社が信頼できると判断した各種情報に基づいて作成されておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。投資信託をお申し込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめまたは同時にお渡ししますので、必ずお受け取りの上、詳細をご確認ください。また、お申込みに関する決定は、お客さま自身でご判断下さい。